

## 「サッカー等スタジアム整備検討協議会」について

標記協議会は、サッカー等スタジアムの整備に係る基本的な事項等について協議するため、鹿児島市において平成29年3月に設置

## 【これまでの検討状況】

## 第 1 回

- 1 主な協議事項
  - ・ サッカー等スタジアム整備検討協議会について
- 2 意見の整理等
  - ・ 協議会では整備の必要性、立地条件、整備主体、スケジュール等について協議することを確認

## 第 2 回

- 1 主な協議事項
  - ・ サッカー等スタジアム整備の必要性等
- 2 意見の整理等
  - ・ 鹿児島市の地域・経済の活性化や市民生活の豊かさ向上のために必要
  - ・ 平成30年1月に市長へ提言を行うことを確認

## 第 3 回

- 1 主な協議事項
  - ・ スタジアムの「立地条件」
  - ・ スタジアムとしての「機能」
  - ・ 組み合わせる「複合的な用途」
- 2 意見の整理等
  - (1) 立地条件
    - ・ 鹿児島市の将来の発展に寄与する立地であることを基本的な考えとし、集客性・収益性の観点から「都心部」が最も望ましい
  - (2) 機能
    - ・ プロスポーツ(興業)に対応できるスタジアム機能を念頭に置き、観て・楽しめる「快適性」、多用途に活用できる「多様性・効率性」を備えていることが望ましい
  - (3) 複合的な用途
    - ・ 年間を通じて「稼働率が高く」、「収益性」又は「公益性」のある用途との組み合わせが望ましい

(市事務局) 具体的な立地場所については、協議会の提言を踏まえて、今後、関係者等も含めて別途協議することになるとの考えを説明

## 第 4 回

- 1 主な協議事項
  - ・ 「整備・管理運営手法」
- 2 意見の整理等
  - ・ 官民連携の「オール鹿児島」で取り組むためにも、可能な限り、民間の資金やノウハウ、経営感覚を整備・管理運営に活かすことを前提とし、鹿児島の実情に最も適した手法(官民のベストミックス)を選択することが望ましい
  - ・ 第5回協議会(12月下旬)において提言案の検討を行うことを確認

## 第 5 回

- 1 主な協議事項
  - ・ サッカー等スタジアム整備に関する提言(案)について
  - ・ 提言への付言について
- 2 意見の整理等
  - ・ 提言(案)について、これまでの協議会で取りまとめた、基本的な考え方を記しており、各委員了承
  - ・ 協議会として、提言に付言を加えることを確認

## サッカー等スタジアム整備に関する提言(案)について

## 1 はじめに

スポーツは、人々を魅了し、熱狂させ、動かす力を持っている。加えて、人々の連帯感を高め、交流人口を増やし、地域や経済の活性化に寄与する、といった多様な波及効果を生み出す可能性も有している。

様々なスポーツがある中、地域振興の柱として相応しいものを考えたときに、①地域に根付き、持続的に市民・県民に愛され、支持されることが期待できること、②アマチュアからプロまで幅広い層に関わりがあること、③集客力が見込まれ、地域や経済の活性化に効果が見込まれること、の3つの条件を満たすことが必要である。

鹿児島におけるスポーツの現状を考えると、これらの条件を全て満たすものとしてサッカーが挙げられる。

鹿児島においてサッカーは、小学生から社会人まで競技人口が多く裾野が広いことに加え、高校を中心に強豪校から数多くのプロ選手を輩出している。また、地元のプロサッカーチーム「鹿児島ユナイテッドFC」が存在し、ホーム・アンド・アウェイ方式により定期的に試合が開催され、一試合平均3,500人を超える観客数（相手チームのサポーターを含む。）を集めるなど、既に地域経済に一定の効果を与えているところである。

このことから、鹿児島市がスポーツを通じたまちづくり、すなわちスポーツにより、さらなる交流人口の増を図るためには、サッカーを中心として進めることが有効である。

## 2 サッカー等スタジアム整備の必要性

鹿児島市がスポーツを通じたまちづくりに取り組む中で、サッカーの可能性に着目し、「地域の活性化」や「市民生活の豊かさ向上」につなげていくためには、

- ① 地域のさらなるサッカー等スポーツの振興
- ② プロスポーツチーム等のモチベーション向上
- ③ サッカー等スポーツの持つ潜在力の発揮
- ④ まちのシンボル・新たな賑わいの創出

の4つの観点から進めていく必要があり、鹿児島市において屋外のプロスポーツの興行が可能な唯一の施設である。

「鴨池陸上競技場」の利用状況や施設面の現状等も考慮すると、その中核となる施設として「新たなサッカー等専用スタジアム」の整備は、欠かせないものである。

## 3 スタジアム整備に向けた基本的な考え方

サッカー等スタジアムの整備を進めるに当たっては、「立地条件」など4つの面から検討する必要があり、それぞれの基本的な考え方は、次のとおりである。

## (1) スタジアムの「立地条件」

鹿児島市の将来の発展に寄与するスタジアムとするため、集客性・収益性の観点から、「都心部」に立地することが最も望ましい。

## (2) スタジアムの「機能」

観て・楽しめる「快適性」及び多用途に活用できる「多様性・効率性」を備えることが望ましい。

## (3) スタジアムと組み合わせる「複合的な用途」

年間を通じて「稼働率が高く」、「収益性」又は「公益性」のあるものとの組み合わせが望ましい。

## (4) スタジアムの「整備・管理運営手法」

官民連携の「オール鹿児島」で取り組むためにも、可能な限り、民間の資金やノウハウ、経営感覚を整備・管理運営に活かすことを前提とし、鹿児島の実情に最も適した手法（官民のベストミックス）を選択することが望ましい。

## 4 おわりに

新たなサッカー等スタジアムが、鹿児島らしさを備え、まちの新たな賑わいの創出、ひいては地域・経済が活性化する起爆剤となるためには、官民が密に連携し、知恵を出しあって取り組むことが重要である。

同時に、整備の必要性等について、市民・県民の理解や支持が得られるような取組を行うことも必要不可欠である。

今後、本提言を踏まえ、スポーツを通じ、まち・ひとが元気になる「シンボル施設」として、鹿児島にふさわしく、将来的にも持続可能なサッカー等スタジアムが実現されることを期待する。

提言への付言について

- ・ スタジアムの整備は、数十年に1度の大きな事業であり、今後、長期間にわたって地域に残る共有財産となることから、鹿児島市のシンボル、新たな賑わい創出、ひいては地域・経済の活性化につながる施設となることが望ましい。
- ・ スタジアムの立地条件としては「都心部が最も望ましい」と整理されたところであるが、都心部（中心市街地等）をはじめとする、新たなスタジアムの具体的な立地については、様々な視点から慎重に検討することが望ましい。

このことから、協議会として、今回の提言に、次の付言を加える。

《付言内容》

鹿児島市の地域・経済の活性化につながるようなスタジアムを整備するに当たり、重要な点は「立地」であり、都心部をはじめとする具体的な「立地」については、様々な視点から慎重に検討することが望ましい。

ついては、「立地」の検討に当たり、整備の可能性など専門的な見地から調査を行うことが望ましい。